

大雪の京都

毎年、正月3日は京都に行くことが多い。宮本憲一先生のお宅にお邪魔して、じつに美味しい料理とお酒で楽しい時間を過ごす。大学院時代からの「恒例行事」だ。金沢の地酒「初心」(はつごころ)という銘酒がおいてあり、先生はいつも「初心に立ち返れ」と弟子たちに発破をかける。退職2年目のことしは、「初心」を肝に銘じたい。

元旦の夜頃から京都は大雪が降ったそうだ。新幹線で関ヶ原から米原を通った時に、雪のためスピードを落としていた。でも京都に近づくと、雪もほとんど消えていた。気になっていた遅れも、7分余りであった。

京都市内が20センチを超える大雪とは考えていなかった。61年ぶりの大雪であり、市内では観測史上4番目の積雪という。まさに記録的な大雪である。京都駅から四条河原町の方に歩くことが多いが、今回は地下鉄と阪急を乗り継いで、松尾まで直行した。

写真上は桂川岸から撮った嵐山方面である。愛用するiPadで寒さに震えながら撮ったが、なかなかの出来ばえである。山並にかかると雲がよい。写真中は雪景色の桂川と松尾橋である。雪の桂川も風情があるものだ。

写真下は雪が残り、滑りやすい松尾橋である。渋滞する車の列を眺めながら、松尾大社の方を恐る恐る撮ったものである。滑って車道に飛び出し、車に引かれるのではないかと考えながら、松尾橋をわたった。いつものように嵐山方面をじっくり眺める余裕はなかった。

早めに先生のご宅に着いて、先生と「さし」で話すことができた。名大時代のことが話題になった。集い半ばで退席して、岐路についた。タクシーを呼んでもらうことが多いが、この日は「話し中」ばかりであり、とにかく途中まで歩くことにした。雪道を滑りながら歩いて、やっとタクシーに乗れたときは、ほっとしたものだ。新幹線に飛び乗ったが、やはり満員であり、名古屋まで立っていった。やはり疲れた。

(2015年1月5日)

